

* 残された文房具

アーカイブの仕事をはじめたのは2008年である。天文台で使われていたもので貴重なものを整備、保管することをやっている。古い歴史的な観測機器などに限らない。今回はアーカイブ室（現在はアーカイブ室はない）に届けられたものの一つで、紙箱に入った文房具の類である（写真1）。

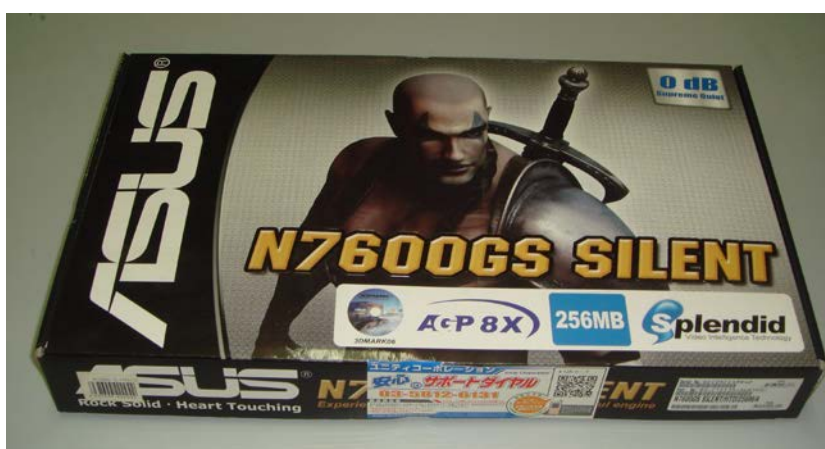


写真1

なにやら、何が入っているのだろうかという期待を持たせる箱であった。中は退職された誰かの引き出しを片付けた際、箱に入れて残したものと思われる。そろばんなどの文房具が入っている（写真2）。すでに何十年か経っているものであろう。



写真2

中に入っていたものは、

- 1) ガラス写真乾板 キャビネサイズ8枚 すでに感光しているはず（写真3）。



写真3 ガラス乾板8枚

ガラス乾板は、すでに製造されておらず、またガラス乾板は平面度がよいので反射鏡の蒸着時のテストピースとして重宝するものなので大切にしたい。膜面がはがれかかったものもある。

- 2) 箱に入ったそろばん (21桁) (写真4)



写真4 21桁そろばん

- 3) 裸のそろばん (27桁) 備品番号 ち-1-4 (写真4)



写真4 27桁そろばん

これらが使われていた時代にはそろばんも備品であった。今では備品ではない。

- 4) 360度分度器 (写真5左)
5) 180度分度器 (写真5右)

今の人は、分度器はほとんど使うことはないと思うが、筆者の学校時代には 180 度分度器はいつも筆箱に入っていたものである。



写真 5 左が 360 度分度器、右が 180 度分度器

6) 謄写版鉄筆セット (5 本入り) (写真 6)



写真 6 謄写版鉄筆 5 本セット ふたの部分に先端のスペアが入っている

今の人たちは、謄写版って何ですかというだろう。筆者が天文台に入った 1960 年代には簡便な印刷器として謄写版が使われていた。学校の試験問題は先生がこのような鉄筆で蠟引きの原紙の蠟を剥がして謄写版でインクをつけたローラーで印刷していたのである。当然ながら組合ニュースのような配布物はほとんどが謄写版刷りの印刷であった。このように鉄筆は残っているが、謄写印刷機は残っていない。インクまみれで汚いし、比較的場所を取る大きなものなので、捨てられてしまった。印刷関係の博物館には展示されているだろうが、もはや天文台で見ることはない。

7) そろばん用ブラシセット (写真7)



写真7 そろばん用ブラシセット

ブラシは2本入っており、大きい方のブラシの取っ手の中には「滑らし粉」が入っている。懐かしいものである。

8) 正体不明器具 (写真8)

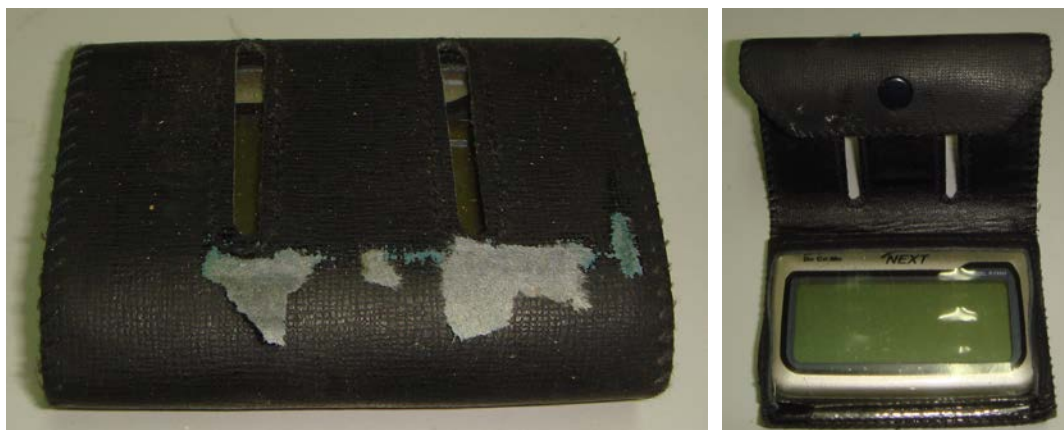


写真8 正体不明の器具

これは、まったく分からない。何に使われていたものだろう。

9) ガラス切り (写真9、10)



写真9 ガラス切り



写真10 ガラス切り先端部 まだ使える

- 1 0) ペン皿 (つけペン4本、コンパス1個、千枚通し) (写真11)



写真11 ペン皿

- 1 1) つけペン ペン先 数十本 (写真12)



写真12 つけペン ペン先

- 1 2) ガラスペン先 21本 (箱入り) (写真13)



写真13 ガラスつけペン ペン先

今となっては珍しいものなので、ガラスペンと、つけペンのペン先の拡大写真を載せておく (写真14)。



写真14 ガラスペン、つけペン先

13) 計算尺 (写真15)

筆者の若いころの件の道具として、よく使ったものに計算尺があった。関数電卓が出現して、対数表、そろばん、計算尺などの計算の道具は駆逐されてしまった。



写真15 計算尺

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp